

小麦の冬期播種栽培技術

小麦の冬期播種栽培における播種期は根雪前とし、播種から例年の根雪始めまでの積算平均気温（0 以上）が 100 以下となるように播種日を決定する。播種量を 10 kg/10a 以上とすることにより穂数が確保され、300 kg/10a 以上の収量が確保される。慣行秋播きと比較して成熟期は 1 週間程度遅く、生育量は小さい。

表 1 冬期播種栽培の生育ステージ（1998～2001年 野菜畑作研究室）

区別	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
秋播き	—	—																															
冬期播種																																	
	越冬前作業不要									根雪終了後に出芽						秋播きより1週間程度遅い																	

注) : 播種期、 : 出芽期、 : 出穂期、 : 成熟期

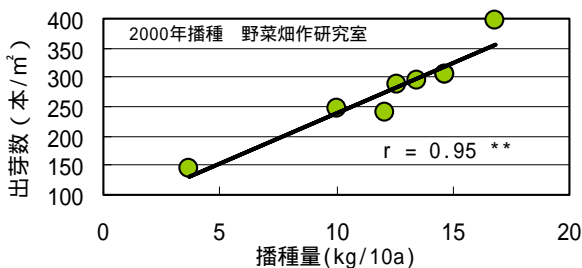
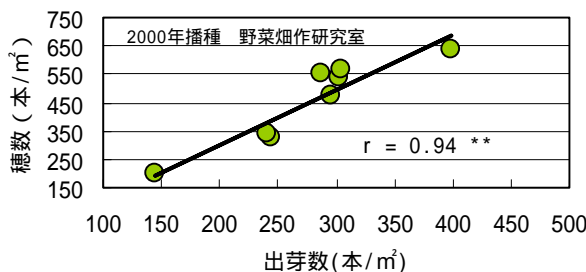
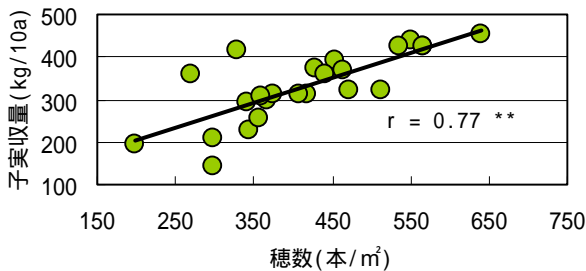


図 1 穂数と子実収量、出芽数と穂数、播種量と出芽数の関係
(1998～2001年 所内及び現地)

表 2 成熟期生育量・収量構成要素・品質等の比較

項目	秋播き	冬期播種	対秋播き差比
出穂期(月・日)	5.11	5.18	+7
成熟期(月・日)	6.28	7.06	+8
稈長(cm)	95	75	79%
穂長(cm)	9.5	8.8	93%
分けつ数(本/株)	1.6	0.8	50%
穂数(本/m²)	416	378	91%
子実収量(kg/10a)	380	358	94%
千粒重(g)	43.6	40.2	92%
リットル重(g)	777	761	98%
外観品質*	3.3	3.4	+0.1
原粒蛋白含量(%)	13.3	14.8	+1.5
硝子率(%)	60.5	72.4	+11.9

注)調査年次：1998年～2001年(所内及び現地)

* : 1(上上)、2(上下)、3(中上)、4(中中)、5(中下)、6(下)

播種適期は根雪前

播種期は、自然の低温遭遇期間を確保するために根雪前とするが、凍害を防止するには根雪前に出芽させないことが重要であり、播種から例年の根雪始めまでが 0 以上の積算平均気温で 100 以下となるように播種期を設定する(播種から出芽までには 0 以上の積算平均気温で 100～120 を要する)。

播種量は 10kg/10a 程度

収量 300 kg/10a を確保するための穂数は 350 本/m² 程度であり、この場合播種量は 10 kg/10a 程度必要であるが、さらに播種量を増やすことで収量は漸増する。

施肥は融雪後

基肥は施用せず、春の根雪期間が終了した後(出芽後早いうち)に窒素成分で 10 kg/10a 程度、また、リン酸・カリも慣行秋播き栽培の基肥量よりやや多めの量を追肥する。